

茨城県牛久市立ひたち野うしく小学校

(概要)

- ・ 児童生徒数（クラス数）：470名（17クラス）
- ・ 構造・階・面積・事業費：鉄筋コンクリート造、3階建て、6,841㎡、15.6億円
- ・ エコスクールの事業タイプ：太陽光発電型、省エネルギー・省資源型、木材利用型、自然共生型
- ・ 整備期間：（検討期間：H18.2～H20.6、工事期間：H.20.8～H22.2）
- ・ 要旨
牛久市では、環境へ配慮した学校づくりとして、給食くずの堆肥化や夜間蓄熱エアコンの採用などに取り組んでいる。ひたち野うしく小学校建設に際しては、内装に茨城県産材を使用するとともに、複層ガラス、熱交換型換気設備の採用など一層の充実を図った。

(エコスクール化の内容)

<校舎外部>

- ・ 軒及びバルコニーの出を深くし、夏季の日差しの影響を軽減した。
- ・ サッシュは複層ガラスとした。



<校舎内部>

- ・ 教室は南向きにし、南北に風が抜けるような平面計画とした。
- ・ 空調は夜間蓄熱エアコンと熱交換型換気設備を採用した。
- ・ 照明は明るさセンサー内蔵型を採用した。
- ・ 内装は茨城県産の杉と栗材を採用した。



茨城県産材で木質化した内装

(エコスクール化の効果)

<木質化での効果>

- ・木質化による児童の反応
児童作文より

(新しい学校 いいきもち 2年 中いずみ きえ)

わたしの学校は、ことし新しくできたひたちのうしく小学校です。

4月6日かい校しきのあと、せんせいにつれられてはじめて校しゃに入ったときぷうんと木のおいがありました。しょうこう口のとんじょうがたかくて森の中みたいでした。わたしは、「うわあ、きもちがいいなあとおもいました。」学校じゅうが新しくてピカピカでした。2年2くみの学校のともだちは39人です。1年生のときは29人だったので、ともだちが10人もふえてうれしくなりました。ちがう学校からきたともだちともすぐになかよくなれました。1くみのともだちとも、めいしこうかんをして、ともだちの名まえをたくさんおぼえることができました。わたしがーばんすきなばしょは、ワークスペースです。1くみと2くみのきょうしつのみえがひろばみたいになっていて、2年生がみんなであつまることができます。雨の日でもハンカチおとしやロンドンばし、だるまさんがころんだなどをしてあそべます。それにほうかごはじどうクラブにもなるとてもべんりです。

しぎょうしきのとき、こうちょう先生が「えがおあふれるせかいーの小学校にしよう」とおっしゃいました。わたしは、こうちょう先生のおはなしのとおりだとおもいました。それは新しい学校はきれいで、ともだちもたくさんいて、みんながなかよくいい気持ちでいられ、わたしもともだちも先生もえがおいっぱいだからです。これからもっともっとえがおあふれるひたちのうしく小学校になり、みんながいい気持ちの学校になれるといいなあとおもいます。



木に囲まれた図書館



木質化された廊下とオープンスペース

(環境・エネルギー教育への活用)

1 太陽電池パネルの活用

- ・本校には、体育館屋根に50kwの太陽電池パネルが設置されており、電気の供給を行っている。第6学年理科の単元「電気の性質とはたらき」では光電池について学習する。光電池に光が当たると光エネルギーを電気エネルギーに変換することを、本校の2階ベランダに設置してある12kwの学習用太陽電池パネルで学習し、その理解に役立てることができた。



2 緑のカーテンづくり

- ・第4学年理科の単元「身近な植物の観察」においては、「ツルレイシ」を育て、成長の様子を観察したり、光や温度の条件を関係づけて調べる。本校では、エアコンが全室完備されているが、ツルレイシを教室の窓辺で育て、「緑のカーテン」を作って太陽熱を遮り、電力消費を押さえる取り組みをした。これにより児童は体験を通してエコの方法と大切さを学んだ。



3 EM菌による堆肥づくり

- ・牛久市は、給食ゼロエミッション事業を全校で取り組んでいる。給食の残滓を出さないよう努力することはもちろん、それでも出てしまった残滓を有効活用しようと、EM菌を利用して、残滓を堆肥化している。その堆肥は学校農園や花壇の土に混ぜて活用することで、資源循環の意義を学んでいる。

